

■天皇皇后両陛下下沖縄県行幸啓
～地方事情御視察～

月刊チャップリン

発行人 株式会社アムス 〒173-0027東京都板橋区南町62-7スカイコートK. 1階

2018年(平成30年)

4月15日

第33巻2通巻205号

昭和62年5月22日第三種郵便物認可

¥200 1・4・7・10月 15日発行

天皇皇后両陛下下行幸啓
沖縄県

平成30年3月27日～3月29日

天皇皇后両陛下は、二十七日から三日間の日程で沖縄県地方事情を視察に入られた。両陛下の沖縄訪問は四年ぶり、皇太子同妃時代を含め十一回目となる。宮内庁によると、これまで戦没者の慰霊を重ね、沖縄の歴史や文化に関心を寄せ続けてきた陛下の意向で、今回の訪問が決まったという。来年四月末に天皇陛下の御譲位が決まっていることから、沖縄行幸啓は、今回が最後とみられている。

二十七日、皇居御発、東京国際空港から特別機で那覇空港へと入られ沖縄県入りされた。同日午後、糸満市の沖縄平和祈念堂で拝礼。国立沖縄戦没者墓苑で供花された。

二十八日、那覇空港を特別機で御発、日本の最西端に位置する与那国島を初めて訪れた。天皇陛下はかねて、遠隔地や離島での生活には不便があるだろうと気に掛け、現地で住民と直接向き合うことを願っていた。与那国島では、日本最西端にある久部小学校で伝統芸能棒踊りを鑑賞されたり、漁師の多い町で日本最西端の与那国漁業協同組合を訪れ、カジキの水揚げを見学された。日本最西端の岬で、条件の良い日には隣国台湾が望めるという西崎などを訪問された。



最終日の二十九日は、沖縄本島の豊見城市で空手発祥の地・沖縄とされる沖縄空手会館を訪問された。同日午後、那覇空港御発、特別機で東京国際空港へと降り立ち、皇居へと帰京された。

『沖縄県広報課より』



天皇、皇后両陛下は28日、与那国空港に到着され、集まった人たちに手を振られる。

沖縄平和祈念堂

沖縄平和祈念堂は、あの悲惨な戦争を二度と繰り返さないよう人種や国家、思想や宗教のすべてを超越した「世界平和のムッカ」を具現することをお願い、財団法人沖縄平和公園建設協会によって、昭和五十三年十月に建設された。

国立沖縄戦没者墓苑

国立沖縄戦没者墓苑は、先の大戦中、沖縄の戦闘で亡くなられ、その後収集された遺骨を納める国立の墓苑。

沖縄空手会館

沖縄空手会館は、沖縄伝統空手・古武道を独自の伝統文化として保存・継承・発展させ「空手発祥の地・沖縄」を国内外に発信するための拠点として平成二十九年三月に整備した施設。

与那国町漁業共同組合

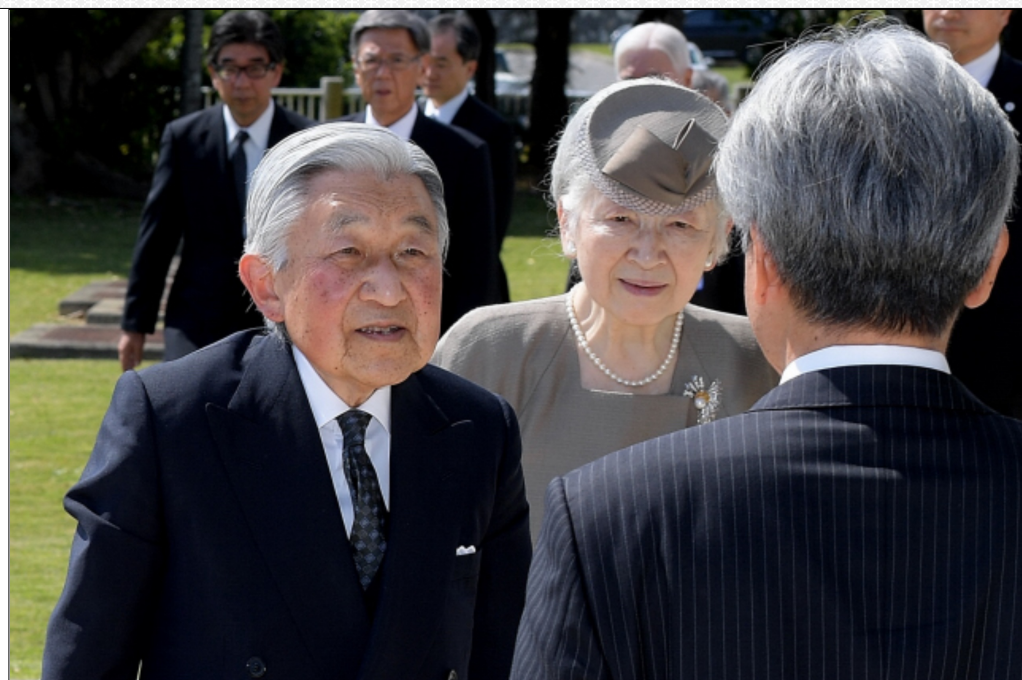
与那国町漁業は、日本最西端の漁業協同組合。本漁協では、黒潮の恩恵を受けた漁場から、年間一〇〇〇本を超すカジキを中心とした多くの回遊魚が水揚げされ、近海でのカジキの漁獲高は日本一となっている。

東日本パイロット協会

災害ボランティア フライヤーズ・レスキュー・チーム
〒980-4504
宮城県栗原市蒲町小深沢232-1 電話 0228-36-2717

羽ばたけ東北

沖縄の歴史に向き合い文化に触れる



天皇皇后両陛下は28日、日本最西端の与那国漁港共同組合を訪問され、水揚げされた巨大カジキを御覧になられた。

天皇皇后両陛下は27日、糸満市の沖縄平和祈念堂で拝礼、国立沖縄墓苑も訪れ供花した。



28日、天皇皇后両陛下は日本最西端の与那国島を初めて訪問され、集まった人たちに手を振られた。

陛下が皇太子の時に初めて訪れた一九七五年七月、ひめゆりの塔で、過激派から火炎瓶を投げられる事件があった。その夜、談話が発表された。――（沖縄戦で）払われた多くの尊い犠牲は、一時の行為や言葉によってあがなえるものではなく、人びとが長い年月をかけて、これを記憶し、一人ひとり、深い内省のうちにあって、この地に心を寄せ続けていくことをおいて考



えられません」。それから四十三年。退位を控えた両陛下を多くの県民が温かく出迎えた。

特定非営利活動法人 社会生活促進援護会

山梨県笛吹市一宮町南野呂394番地1号
電話 0553-47-2236